

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みにになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

リンパ浮腫診断治療指針 2013

一般社団法人リンパ浮腫療法士認定機構編 リンパ浮腫診断治療指針 2013 編集委員会 (委員長: 松尾汎 松尾クリニック理事長; 藤田保健衛生大学客員教授)
メディカルトリビューン、2013年9月10日 第1版発行

■1 漢方薬

疾患:

リンパ浮腫

有効性に関する記載ないしその要約:

リンパ浮腫の疫学の治療の項に、下記の記載がある。

『薬物治療が 19.78%で施行され、内訳は利尿剤 6.45%、漢方薬 2.10%、メリロートエキス複合剤 1.96%、抗血小板、抗凝固剤 0.98%であった。効果は 77.30%で無効であった。』

■2 漢方薬

疾患:

リンパ浮腫

有効性に関する記載ないしその要約:

リンパ浮腫の最近の治療: 方法、手技についての薬物療法の項に、下記の記載がある。

『リンパ浮腫を軽減する治療として、ベンゾピロン類、利尿剤、漢方薬などが使用されることがあるが、いずれも効果について明らかなエビデンスが得られておらず、副作用のリスクを有することから推奨されない。また原発性リンパ浮腫に対する研究報告はほとんどみられない。』

副作用に関する記載ないしその要約:

『副作用のリスクを有する』